

第一化成

創業は昭和22年（1947年）、大阪出発の商社として70年の歴史を刻む第一化成は、オンラインワンやニッチトップを標榜する高機能商材に関わるビジネスの可能性をあらゆる角度から探っている。頻繁に海外渡航する奈良敏行社長は、「小回りを効かせた機動力が中小商社の最大の強み。きめ細かな顧客サービスで専門商社の新たな境地に分け入りたい」と意欲的。東南アジアなどを舞台にした新事業も立ち上がっているようだ。

タイの販売会社ではすでに、自動車向け合成木材の販売が軌道に乗っており、合成木材に続く商材として繊維用薬剤なども浮上している。日本の繊維加工材事業部と販社の連携も順調で、タイ以外の東南アジア諸国に販売エリアを拡大する方向で戦略策定に入っている。

日本国内での繊維関連事業の足取りも着実だ。アパレルメーカーと共同開発し、今年か

ら市場投入した機能性薬剤の販売は好調だという。北陸、奈良の染色試験室の機能を活用した顧客サービス体制も年々充実。こうした「地域密着」の経営姿勢はグローバル化が進んでも変わるこがなさそうだ。

一方、樹脂やフィルムを扱う機能材事業部や水処理向けのダウ・ケミカルグループのUF・RO膜を販売する環境関連事業部の動きも活発だ。「機能材分野では、特殊用途の樹脂やフィルムの市場開拓、希少金属などに関係する取り組み。さらには土木建設用薬剤を扱う商材はニッチ領域を狙うのが当社の強み」と奈良社長。環境分野ではイオン交換・キレート樹脂（住化ケムテックスとの提携事業）の販売実績に加え、自社開発の金属吸着樹脂の生産・拡販に乗り出しており、今期も各事業部の戦略から目が離せない。

機動力生かし新境地開拓